

郷土を知る  
むかしむかし  
昔々の  
そお市

第58回



江戸時代の溝ノ口洞穴

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

溝

ノ口洞穴は、約3万年前に始良カルデラから噴出した入戸火砕流堆積物層に形成された大規模な自然洞穴です。令和3年3月26日に曾於市としては初の国指定（天然記念物）となりました。

近年はパワースポットとして広く紹介され、多くの観光客で賑わいます。来訪者名簿に記載された数だけでも年間2.5万人を超えており、実際はもっと多くの来客数があると思われます。

さて溝ノ口洞穴の古い記録について、これまで昭和期の郷土誌や調査資料ぐらしいがなく、古くから知られていた洞穴のようですが、明治・大正期以前の様子はよく分かっていませんでした。ところがこの度、江戸時代に得能通昭が記した『通昭録』に、溝ノ口洞穴の記録があることを確認しました。寛政元年（1789）の成立とされ、天保14年（1843）の『三國名勝図会』よりも古く、当時の様子を伝える貴重な記録です。次に洞穴部分の記述を掲げます。

『下財部溝の口の隣に岩屋の谷あり、谷中岩穴有り、高サ壱丈餘（約3ト）』、徑り十二間（約21ト）、穴の上に十一面観音を刻む、穴中より水流れ出て、未ハ餘多の田に懸る、俗に此穴、霧島につ、

くといふ、華林寺の近邊小穴あり、時々穴中より風出るゆへ風穴といふ、此穴いつれにか通すると見えたり、もしくはハ此穴か、凡五里（約20ト）ほとんどあらんと云、往々穴に入る者多し、数百間入れハ穴狭く、其奥ハ廣して立て歩む、近年大勢列立、松明を燈し遠く入る、甚なまへさき所に至る、是より壊れて還るといふ、

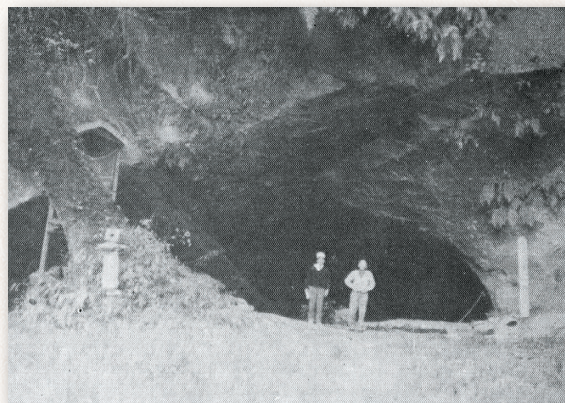
この記録で少なくとも江戸期には、壁面に観音様が刻されていた（現在は一部残存）ことが分かります。そして洞穴にはたいまつを持った大勢の人が列をなして押し寄せ、最深部まで見学するなど大層賑わっていたようです。

また本文に出てくる華林寺は、霧島神宮（霧島市）の西側にあったお寺で、洞穴はこの近くの小穴まで通じていたとされています。犬を放つたら高千穂の峰に出てきたという話とも相通ずるものがあり興味深い記述です。

昔の溝ノ口洞穴の写真を探しています。お持ちの方がいましたら、生涯学習課までお知らせください。



【アクセス】



財部町郷土史（昭和47年刊）より